

太宰府市俳句ポスト百二十三回入選者

令和六年五月十四日〜令和六年八月六日

選者 阿比留 初見

入選句

何事も雷鳴去つてよりの事	太宰府市	松尾 満子
夏のれん茶店が誇る庭見ゆる	福岡市	満重 勇二
散策の歩幅が伸びる秋近し	太宰府市	兼田 和加子
形代に息吹きかけて手を合はす	福岡市	白井 道義
久々の朝日に映ゆる半夏生	太宰府市	西元 治雄
どくだみや触るる人なき力石	福岡市	河野 京子
参道の日陰をたどる薄暑かな	筑紫野市	寒竹 賢次
ちまき食べ母の味またなつかしむ	北九州市	今村 多鶴子
風にまひ反りかへりては鯉のぼり	太宰府市	佐藤 典子
親友と梅ヶ枝餅にはしやぐ夏	神奈川県	星 桃子
フットワーク軽さう風の花楓	福岡市	草野 尚葉
奥宮へ光明一途五月闇	大野城市	岡井 由里
病葉の日毎に増ゆる日差しかな	福岡市	元村 住雄
太宰府の夕焼に染まる観光バス	北海道	こんどう ようた
青空へむくむく育つ樟若葉	福岡市	神里 実
こどもの日ださいふに来てねがいごと	福岡市	はまだかんだ七歳
いろいろなあじさいの色きれいだな	太宰府市	前川 美心 九歳
雨の中すずめが一ぴき雨やどり	福岡市	小椎尾興映 九歳
夏の宮ご縁があろうとおみくじを	東京都	夏 優花 十歳
新緑の天満宮に夢託す	大阪府	乗松 大樹 十四歳